災害対策調査特別委員会が報告書を提出

市の防災対策及び災害対策の強化に関する事項について調査・研究を行ってきたが、昨年11月、調査を終了し、報告書として取りまとめ、市長に提出した。

▲議長、委員長、副委員長が市長へ報告書を提出

東日本大震災での経験を踏まえ、今後、同規模の災害に遭った場合にも、被害を最小限にとどめ、市民の安全・安心を確保することができる、災害に強いまちづくり・地域づくりを推進する施策を提言すべきという考えから、現状などを踏まえ、地域防災計画を中心とした災害対策・防災対策に焦点を当て、次の6つの視点から提言をした。概要は以下のとおり。

①市民の防災意識
②情報伝達・収集体制
③地域防災力
④避難所及び備蓄
⑤帰宅困難者対策
⑥原子力災害対策

災害はいつ発生するかわからず、これまで想定していなかった災害が発生する可能性もある。

そのため、これからの災害対策には、「減災」という視点が必要であり、そのあり方を考えるときに大切なことは、「自助」、「共助」、「公助」が効率的に連携することである。特に、今回の震災を経験して得られた「まずは自分で自分の身を守ること。そして、近隣に住む人たちと助け合い、自分たちの地域は自分たちの力で守ること」の大切さを忘れずに、各主体がみずから考え、役割を認識し、できることから取り組んでいくことが肝要である。

本提言が、市の災害に強いまちづくり・地域づくりのために、市民や企業、行政が果たすべき役割の道標として寄与することを期待する。

▲昨年8月に、栃木県への行政視察を実施

JR宇都宮駅周辺地区整備調査特別委員会が中間報告書を提出

JR宇都宮駅周辺地区整備調査特別委員会では、西口周辺地区整備基本構想の策定に向けた提言を取りまとめ、1月11日に中間報告として市長に提出した。

中間報告の主な内容は、次のとおり。

○広域的な交流拠点にふさわしい都市機能の集積として、情報発信機能や公共公益サービス機能を導入配置
○交通利便性の向上と安全性・快適性の確保として、※ペデストリアンデッキの宮の橋付近までの延伸
○良好な景観の形成として、看板などの規制、駅前から宮の橋までの一体的な整備や田川などを生かした景観整備

▲議長、委員長、副委員長が市長へ中間報告書を提出

議会制度検討会議

宇都宮市議会では、議会改革を推進するため、「議会制度検討会議」を設置し、議会制度の見直しについて、検討を進めている。

現在は、議会基本条例の制定を中心に検討をしているが、先進市の取り組み状況を調査するため、会議メンバーを2班に分け、行政視察を行った。

その様子は以下のとおり。

第1班

10月22日、23日の2日間、議会改革と議会基本条例の取り組みについて、愛知県豊田市と京都府木津川市にて視察を行った。

▲木津川市での視察の様子

第2班

10月30日、31日の2日間、議会改革と議会基本条例の取り組みについて、神奈川県横須賀市と兵庫県宝塚市にて視察を行った。

▲宝塚市での視察の様子

常任委員会視察報告

総務常任委員会

10月15日～17日の3日間、佐賀県武雄市の「ICT活用の取り組み」、愛知県名古屋市の「自転車施策」、岐阜県岐阜市「総合交通戦略」について視察を行った。

▲岐阜駅前での視察の様子

環境経済常任委員会

10月17日～19日の3日間、千葉県松戸市の「空き家等の適正管理に関する条例」、北海道函館市の「競輪場の取り組み」、岩手県花巻市の「企業化支援」について視察を行った。

▲函館競輪場での視察の様子

※ペデストリアンデッキ…歩行者と自動車の動線を分離するために設置した、高架になっている歩行者専用の通路